

PRO-LIFE

胎児を守る運動

中絶に反対する運動

1997年10月 No.84

避妊薬ピルとカトリック教会の教え

避妊薬ピルの使用解禁をめぐる中央薬事審議会医薬品特別部会の決定を、毎日新聞朝刊紙は一九九七年八月十三日付けで次のように報道している。「低用量ピル（経口避妊薬）承認の可否を審議していた厚生省の中央薬事審議会医薬品特別部会は十二日、ピル承認の条件として、服用後の性感染症の動向調査を行なうことを決めた。しかし、検査項目など具体的内容についてさらに審議が必要と判断し、次回十月末の部会に結論を持ち越したため、ピル解禁は来年にずれこむ可能性が出てきた。」

この記事から分かるように、医薬品特別部会は唯一、薬理学の視点に立って避妊薬ピルの使用の可否を審議しただけであって、その倫理的可否については全然触れていない。倫理の視点から論及すれば、避妊薬の使用の是非それぞれ自体が先ず問われなければならないのである。「倫理」、それは人間が個人として、または社会人として守らなければならない行動の基本的ルールである。人は誰でも最も基本的な権利として、「生きる権利」を持っている。国が定めるあらゆる

実定法は究極的には、この生きる権利の養護のためにあるのである。

人間のいのちはすべて、結婚の絆によって結ばれた男女が互いに交わす愛の結晶として生まれ、親の愛に包まれ、家族の愛情に迎えられて発育、成長する。人間を男と女に創造された神は、二人の愛を祝福し、新しいいのちの誕生の唯一の経路とされた。「産めよ。増えよ」。この神の祝福の言葉は、夫婦の愛に豊饒をもたらす言葉である。と同時に、いのちに対する責任の委託でもある。したがって夫婦は、責任を持って自らの父性あるいは母性を生きなければならない。「責任ある親性」（親たること）、これは生まれてくる子どもに対する責任、既に生まれている子女に対する責任、彼等の発育、成長を保証する生活の質と生活のレベルに対する責任を意味する。神は受胎調節を全面的に禁じておられるわけではない。神がお与えになられた自然の法に則って、責任をもって受胎調節を行なうこと、これを神は望んでおられるのである。ところで、避妊薬ピル、またその

他、人工的手段を使って行う避妊行為は、生まれてくるいのちに対する否定的、拒絶的態度の表明である。「子どもはいらない」「子どもは産みたくない」と言った類の、いのちに対する拒否、拒絶である。生きていく人間、否、より正確な言い方をすれば、生かされている人間の誰に、生まれてくる筈のいのちに向かつて、「あなたははいらない」と拒否する権利があるでしょうか。他者の誕生、他者のいのちをあらゆる権利はだれにもない。にもかかわらず、今日数知れない多くの胎児、幼児、人のいのちが奪われている。人間のいのちに対する今日の脅威の数々は、人工的避妊行為も含めて、神不在の世俗主義と快楽主義に毒された人間の仕業である。

カトリック教会は人工的避妊行為も、墮胎も安楽死も認めない。それは人間一人ひとりのいのちに対する熱狂的愛の故である。人間のいのちの源泉は、唯一、愛である。人間に対する神の愛、結婚によって結ばれた男女の愛、二人の愛の結晶として新しいいのちは生まれる。新しいいのちに対する親の愛、

兄弟姉妹の愛情、多くの人たちの温かい愛に包まれて人は成長し、愛する人と成って自立するのである。このように、人間のいのちの源は愛である。愛をとまわらない人間のいのちの操作は、神がこれをおゆるしにならない。神は愛だからである。

長崎教区・島本要大司教



人工避妊に対する反論

「人工避妊は私達の存在する全ての国、すなわち世界中が直面する深刻な問題の根底にある。それがいかに悪であるかは気付きにくい。なぜなら、根底にあるがためにその醜さを見ることができないからである。」

雑草は根っ子から引き抜かないといくらでも育つことはだれでも知っている。ここにあげるのは地球上に住む人類という庭をひどく荒らしている雑草の葉たちである。結婚前のセックス、姦通、ポルノ、離婚、妊娠中絶である。多くの人がこれらの雑草を庭からむしろうと努力しているのだが、適切な方法、つまり根っ子から引き抜いて、それをとるうとしていく人はほとんどいないのである。この雑草の栄養になっっているのが人工避妊なのである。一体どういうことだろうか。

神は結婚、セックス、そして生活の作者である。神の作品を改良することなどできるだろうか。神の描いたものを何の結末もないように変更することができただろうか。とんでもないことだ

と思う。私達が目の当たりにしているのは、多くの人が無害だと信じているものの悲劇的結果であると思う。小さなピルを飲んだり、コンドームを使うことなどがいけないというの？お互いの意志で結婚した夫婦がどうして寝室でのプライバシーに危害を及ぼすというの？

人工避妊をしようとするたびに、私達は、神が与えて下さった性交渉の贈り物が完全なものではないと神に言っていることになるのである。私達の方がより良い手段を知っていると信じているようなものなのだ。さらに、自分達が行ったことが直接何かを引き起こすとは考えてもいないだろうが、実際は神の計画を変えてしまうことになって、いざれ必ず傷を負うことになるので

ある。次に挙げるのは、人工避妊をすることで個人的、集団的に人間性に害を及ぼした例である。

1. 人工避妊は神に対する忠誠心を弱めてしまう。神とコミュニケーションをとりながら家族計画について忠実に実行する代わりに、私達は自分の生活を自分達の判断で決定するようになったのである。自分達が欲しい子ども数は自分達が知っており、人工避妊することで今までのように神にいちいち相談しなくても良くなったと思っ

てい

てい。子どもが絶対にできないセックスには自制が求められない。その結果、私達はその点が弱くなる。セックスにおける自制は必要でない限り働かせようとはしない。人工避妊する場合はその必要がないのである。

ではなぜ必要なのだろうか？それは神が私たちに身を慎むように命じ（ペテロの第一の手紙第5章8節）ているからであり、霊の実における自制を与えてくださっているからである（ガラタイヤ人への手紙第5章23節）。私たちは愛、喜び、平和等と同じように自制を実行しなければならぬのである。「善業を伴わない信仰はむなし」（ヤコブの手紙第2章20節）のと同じように、証拠を伴わない自制は無意味である。お互いのためを思っ

てい

てい。子どもが絶対にできないセックスには自制が求められない。その結果、私達はその点が弱くなる。セックスにおける自制は必要でない限り働かせようとはしない。人工避妊する場合はその必要がないのである。

ではなぜ必要なのだろうか？それは神が私たちに身を慎むように命じ（ペテロの第一の手紙第5章8節）ているからであり、霊の実における自制を与えてくださっているからである（ガラタイヤ人への手紙第5章23節）。私たちは愛、喜び、平和等と同じように自制を実行しなければならぬのである。「善業を伴わない信仰はむなし」（ヤコブの手紙第2章20節）のと同じように、証拠を伴わない自制は無意味である。お互いのためを思っ

てい

人工避妊は私達の存在する全ての国、すなわち世界中が直面する深刻な問題の根底にある。それがいかに悪であるかは気付きにくい。なぜなら、根底にあるためにその醜さを見ることでできないからである。根っ子そのものはそれが何を産み出すかわかるまでは恐ろしくも何ともない。この根は誰もが嫌う恐ろしい雑草に育つ。だったらそれとことん嫌い、根こそぎ引っこ抜いて雑草が枯れていくのを見ていようではないか。

CC17.9/8998



若者たちの前向きな反応にふれて

私はこれまでに、米国とカナダで何千人ものティーンエイジャーを相手に、貞潔というテーマで話をしてきました。そして喜ばしいことに、いずれも彼らの前向きな態度に圧倒される結果に終わっているのです。貞潔であることがこれからティーンエイジャーにとって進むべき道であると締めくくった私に、多くの州で立ち上がったの拍手喝采が与えられたのです。

私の話を聞いたことがなく、そのテーマが貞潔で、対象がティーンエイジャーであるという点だけで知っている大人の方のあるコメントが、こういった体験を重ねている私にはとても興味深く感じられました。その方はこんなふうに言いました。「貞潔ですって！なんて古臭い言葉なの！あなた、本気でそんなことを言ってるの？」

こういうコメントを聞くと、正直とか誠実、リーダーシップや真実といった価値が、まるで法律で禁止されているかのように感じます。「貞潔」とは、ある女性は香水の名前だと思っていましたし、また「古い時代に」若い乙女の純潔を保つために使わ

れた帯であるという人までいました。話の中で私がティーンエイジャーに、結婚したカップルは貞潔を守るべきかどうか聞いたところ、ほとんどの答えが「ノー」でした。

これらのコメントから容易に察せられるように、「貞潔」という言葉は、その本当の意味と共に、時代から取り残され廃されるところという重大な危機に瀕しています。「貞潔」の意味を理解し信じている我々が、人々に説明し、教え、自らその価値を実行して、世間に復活させるべく最大限の努力をしなければならぬのです。現在でも貞潔を守っているティーンエイジャーは、そうでないティーンエイジャーもいるわけで、我々はこうした若者達に貞潔というメッセージをもって接する必要があるのです。

ところで、今日のティーンエイジャーが直面している最も切実な問題は一体何でしょうか？ 増え続けるティーンエイジャーの自殺も重大な関心事ですし、多くの若者が抱えるアルコールの問題もあります。けれども私は、ティーンエイジャーが一九八十年代にもっとも取り上げられた問題ではないかと考えます。

百五十万人ものティーンエイジャーの妊娠は、もはや流行病であるため、メディアは報じています。どの州にも、この問題を考えるための「専門委員会や委員会が設置されていますが、しかしそのどれをとっても大切な構成要員が欠けているのです。それは何か？ そう、ティーンエイジャーです。なぜこれらの委員会にティーンエイジャーが関わっていないのでしょうか？ ティーンエイジャーの問題は、結局は彼ら自身にもっとも深く関わってくるのに、解決法を求め、中絶や避妊をティーンエイジャーに押しつけているのはむしろ大人の方なのです。要するに、大人達は問題を解決するのではなく、「処分」しようとしているのであって、その処分方法こそが事態をさらに悪化させているのです。

なぜこういったことが起きてくるのでしょうか？ それは、我々大人社会がティーン達を尊重していないからです。今時の若者は「セックスに関して手をつけられない」存在で、避妊するには身体の中に器具を取りつけない限り不可能だと考えているのです。若い世代に対して、なんという酷評でしょう！

貞潔とは何でしょうか？ それは、我々の性を理解し、神がそれをどう扱うよう意図されたかを知ることです。結婚外でのセックスをせず、結婚して配偶者とセックスをすることです。性的な行為は夫婦間にはつきりと限定しています。そうすることで、ティーンエイジャーの妊娠、エイズ、性病、そして中絶などに対する大きな解決法になります。貞潔こそが、身体的・精神的・社会的にすべての調和のとれた健康が養われる方法なのです。これは100%効果的で、コストがかからず、有害な副作用もなく、若者を人生の軌道に乗せられる方法です。しかし、これほど明快な解決法が、学校や両親から示されることすらないようです。

子ども達はどうでしょうか？ 彼らは我々の子どもであり、彼らに起こる出来事は我々の関心事です。ティーン達は真実を語るに値し、それを語れるのは彼らを愛する我々しかいないということ、私達、親が認識するべきではないでしょうか。

貞潔こそが彼らにとつての唯一の解決法であると知れば、ティーンエイジャー達はそれを実行できるし、すると私は思います。さあ、今すぐにでも子どもに貞潔の話をしてあげて下さい！

純潔について

その昔、ある若者は高まる感情でまるで押しつぶされてしまうような経験をしたものでした。何年も生活を共にした女性が彼を去ろうとしたとき、彼は、彼女を大事に思っていたわたしの心は、めっちゃめちゃに傷つき、血まで流している」と感じたものです。

アウグスティヌスという名のこの男性は、大いなる心の迷いと苦悩を体験しました。さらに、彼はキリスト教の真理について確信を持ってはいましたが、一つの困難のために、イエスにその命を捧げるところまで行ってはいませんでした。「わたしをあれほどきつく縛り付けていたのは、主に、決して満たされることのない欲情を満足させるという習慣に過ぎなかったのです。」

大な聖人になりました。同じく、現代人も自分たちの生き方を変えて、既婚であろうが、未婚であろうが、性的に純潔な生活を営むことができます。

では純潔とは一体なんでしょうか

性の衝動は良いものです。性欲があるからこそ、夫婦は創造のあのもとでも偉大な業 永遠に続く靈魂を備える新しい人間の創造に参与できます。しかし、全ての良いものと同じく、性は結婚という場を必要とします。性のそのあるべき場は純潔によって守られます。

純潔とは、わたしたち自身の最大の善、社会の善にわたしたちの性を秩序づけることを可能にする力です。純潔は、また、自分中心主義の束縛を打ち砕く助けとなる霊的な力でもあります。この徳はいろいろな形 自己抑制を通して、他者と自分自身に対して健康で清らかな態度を取ることを通して示されます。慎みを大事に思うこと、感情の自己抑制 意志のコントロールを発達させることによっても示されます。純潔は異性の体だけを愛するのでなく、異性の人格を愛することによって示

されます。

しかし、わたしたちは、ひたすら自分自身の快楽のために性を求めるのです。わたしたちは、異性を、もしくは自分自身のからだを、一個の人格としてでなく、ものとして取り扱ってしまいます。この傾向は、人類が逃れることのできない罪の結果に他なりません。性の乱用の例をここにいくつか挙げる、と、淫行(結婚以外のセックス)、マスターベーション、同性愛、姦淫、人工避妊です。わたしたちの体の中にある性の衝動は、人類の存続のために神が備えられた、良いものではあっても、わたしたちの傾向は、わたしたちの自然の傾きの赴くままに振る舞ってしまうということです。罪は神への背きであり、究極的にはわたしたちを傷つけてしまいますから、わたしたちは罪に対しては戦いを挑まねばなりません。

神の意志

わたしたちが純潔であり、清らかでなければならぬ理由はいくらでもあります。例えば、十代の妊娠は言うに及ばず、性病の蔓延を挙げることができません。また、精神的な問題や人間関係に関する問題、不道徳な性から来る罪の意識、等々。しかし、純潔でなければならぬ一番の理由は、それが性について神が計画なさったことの一部であるからです。神様はあなたが、今も、そして天国でも永遠に幸福であるために、あなたを創造なさ

いました。神様のこの計画に沿って生きることは当然ではありませんか。それは、車についてくる運転マニュアルに従って車を運転するようなものです。神様の示す道に従えば、あなたは幸福になります。従わなければ、苦しむだけです。

キリスト信者は、常に純潔、清らかな振る舞いの大事さを主張してきました。聖書には「淫行を避けなさい」(1コリント6:18)と書いてあります。また「実に、神のみ旨はあなたが聖となることにある。淫行を避け、おののが器を神聖に尊く保ちなさい」(テサロニケ4:3-4)。

婚前の性は罪ですが、それは、どの程度、罪深いのでしょうか。聖書には次のように書いてあります。「肉の行いは明白である。すなわち、淫行、不潔、猥褻…以上のようなことを行うものは神の国を継がない」(ガラテヤ5:19-21)。これらの節は、わたしたちが悔い改めないで死ねば、性的な罪で地獄に墮ちることを示しています。一九七五年に発表された「性の倫理に関するいくつかの問題点」の中で、バチカンには「性的機能の行使は、結婚の中においてのみ、その真の意味と倫理的な正しさを保持得ます」と、言っています。この文書の中で、わたしたちが一般的な意味で神に向かっていると云うだけでは不十分である、という文があります。それはわたしたち

がわたしたちの個々の行動によって、大罪を犯すことができるかと教えています。ことわざの通り「行動は言葉に勝る」のです。また、主がおっしゃったように「わたしに向かつて『主よ、主よ』という人が皆天の国に入るのではない、天にまします父のみ旨を果たした人が入る」(マテオ7:21)。また、最後の晩餐でも「わたしのおきてを保ち、それを守るものこそわたしを愛するものである」(ヨハネ14:21)とおっしゃっています。

天からの助け

わたしたちは、どのようにして性的エネルギーを、健康で聖なる方向に向けることができるのでしょうか。わたしたちがまず認識しなければならぬのは、純潔である力が自分自身の中から来るのではない、ということ。それは神から来ます。性的な清らかさは、イエス・キリストに由来する救いの力の中でのみ可能です。イエス・キリストは、今も、またこの地上を歩かれたあのときも、神であると同時に、人間でもあります。イエスは、わたしたちに必要なものは、全て願うよう教えて下さいました。その助けのことを恵みと言います。あなたがそれを望み、それを求めさえすれば、イエスはあなたにこの恵みを与えて下さるでしょう。

しばしば和解の秘蹟と御聖体の秘蹟を受けることによって、神だけに可能な特別な助けに頼りなさい。また、あなたは毎日祈っていますか。

性的清らかさは、主に、このようにして守られます。

歴史を振り返ると、キリスト信者であることが困難な時代もありました。現代もそのような時代といえるでしょう。しかし、まさにそうだからこそ、キリストを選択することがもつと魅力的になるのです。困難なことからこそ勇気を必要とします。そして、勇気は何と尊いものであることが、考えてみて下さい。しかし、困難にもかかわらず、現代のキリスト信者は、結構、笑い、歌い、喜ぶ材料に事欠きません。もつとお分かりでしょう。キリストの愛のために忍ぶ犠牲は、喜びを伴います。最後の晩餐の時、キリストは、「わたしがこう話したのは、わたしの喜びがあなたたちにあり、あなたたちに完全な喜びを受けさせるためである」おっしゃいました(ヨハネ15・11)。

あなたにできること

あなたも、自分にできることを果たさなければなりません。思いをコントロールすることです。想像力はしばしば「心の戦場」です。目はみだらの思いの窓になり得ます。目の慎みを大事にしましょう。「全ての真、全ての気高いことを念頭に置きなさい」(フィリップ4・8)

魅力的な男性(もしくは女性)に惹かれるとき、こう祈りなさい。「神様、こんなに魅力的な人をあなたが創造なさったことを、感謝いたします。わたしが、彼(彼女)を

性的対象としてでなく、あなたが創造なさったものとして見るよう、助けて下さい」その他、性に関係しうることで良い選択をすることも助けになります。良い友を選ぶように気を付けましょう。健康な活動に参加しましょう。下品な言葉や口にしらないことも大事です。服装は慎みに欠けません。若い人たちにとつてデートでアルコールを飲むことは危険です。男女はグループで交際するようにしましょう。結婚の準備ができていない限り、大きな誘惑になりかねない、特定のひとだけのデートは勧められません。

音楽、テレビ、映画も度を過ぎると、頭の中には、しばしば欲望に変身してしまつ、恋愛感情の偽物の映像ができあがってしまいます。ヘビー・メタルの音楽、下品なビデオを避けるのも賢いことです。スクリーン上の映像の多くは淫行と姦淫の行為であり、それらはあなたの想像力に働きかけて、欲望を起こさせることを狙つたものになりません。いわゆる成人向きの映画とかその他あなたがいかかわしいと思う映画は見ないことです。愛情表現に関してですが、あなたは「どこまで許されるのだからか」という疑問に悩まされることはありませんか。情熱的になることと、これは結婚の準備としては最も悪いものです。多くの既婚女性は、一歩寝室の外に出ると、愛と優しさの表現法を知らない自分たちの夫について、きつい苦情を漏らして

ています。独身の人たちにとつては、制限ラインを危険な地点に限りなく近く引けば引くほど、危険が増大します。性につながる愛情の印を言葉で言い表せるようにするのは、です。

童貞と処女

過去、現在を問わず、多くの優れた男女の群が性的自己抑制のいい模範を示してくれています。前述した聖アウグスティヌスは、自分の生活の中にイエス・キリストを受け入れる決心をしたとき、神の国のために独身生活を選択しました。

もう一つのいい例は、旧約聖書に出てくるヨセフです。創世記はパロの妻の誘惑を彼がどのように退けたかを物語っています。聖書によると、ヨセフは背が高く、ハンサムでした。パロの妻は彼を見て、欲情を燃やし、「わたしと一緒に寝ておくれ」と言いましたが、ヨセフは言いなりにならず、「そんな大それた悪事をして、神に対して罪を犯すわけにはいきません」と言いました(創世記39・9)。

今世紀の初めのことです。貧しい移住者用の住宅に住んでいた12才になるイタリアの少女マリア・ゴレットティは、純潔を守るために命を捧げました。ある日、彼女が一人で留守番していた時、彼女は19才になるアレックスサンドロ・セレネッリに襲われました。自分の言いなりにならないと殺すと言つて脅かされても、彼女は断固として

「それは罪だわよ、アレックスサンドロ。そんなことをすると地獄に行くのよ」と言つて譲りませんでした。怒り狂つたアレックスサンドロは、包丁で彼女を14回も突き刺しました。

次の日、マリアが病院で臨終を迎えようとしていたそのとき、病院付きの司祭は、イエスがどのようにご自分を殺そうとしていた人たちを許されたかを話しました。マリアは「わたしもアレックスサンドロを許しますわ。いつか彼もわたしと一緒に天国にいることを望みます」と言つたのです。何年か後、彼女は聖人の位に上げられました。

これは今世紀のことですが、一九八四年度のミス・アメリカになつたシャリー・ウェルズは、婚前セックスについて質問されたとき、こう答えています。「わたしにとつて結婚はとても大事なものです。だからわたしはそれまで自分を大事にとつておくの。女の子たちは、あまりにもしばしば、わたしは彼を喜ばせるためにそうしなければならぬ」と考えます。しかし、後から彼女たちは後悔するのです。特に、彼が他の女の子の許に走つてしまったとき

をしなければならぬ。わたしは大変な罪を犯したけど、確かに天国には行けるだろう」と言つています。

純潔を取り戻すために、あなたは生活スタイルを根本的に変える必要があります。セックス・パートナーとはきつぱりと別れなければなりません。罪の仲間とは距離を保つことです。新しい友人に恵まれる必要があるでしょう。あなたは、セックス無しの生活なんて不可能だと思つてもいいかもしれません。聖アウグスティヌスは女を抱くことなしには生きることは不可能であると思つていました。それでも、神の助けがあれば自分にもそうできることを、彼は発見しました。

身に付いたセックスの習慣は怒り狂つた雄牛のようなものです。それは心と意志のコントロールの許におかれなければなりません。この奴隷のような状態から解放されるまでには、何ヶ月も、いや、何年もかかるかもしれません。ですから、まず目標を一日だけに絞るのです。勇気を失つてはいけません。あなたが努力していることが、すでに神の恵みが働き始めたことの印なのです。7ページ

再出発

あなたは性的な罪を犯したことがありますか。そうであれば、まずしなければならぬのは悔い改めです。聖マリア・ゴレットティを殺したアレックスサンドロ・セレネッリは、自分の罪を告白し、「わたしは償い

責任はだれに

伝統的に、男の子が言い寄るとき、女の子は「駄目よ」とたしなめることが期待されていたものです。現代、しばしば男の方が女の子の誘惑に反して、純潔を守らねばならないと言われます。自分の行為には、男女両方に責任がある、というのが公平でしょう。純潔は男女両性の徳です。30才になるある独身男性がこんなことを言いました。「わたしは自分が童貞であることを誇りに思っています。ある意味では、わたしが結婚して、童貞でなくなるのは淋しいような気もします」

「責任あるセックス」とは人工避妊をするセックスのことなどと、あなたに教えたがうかもしれません。これは、何と安っぽいごまかしではありませんか。罪を犯しながら人工避妊をすることは責任あるセックスではありません。結婚外でのセックスは、避妊していようとしまいと関係なく淫行 大罪 です。独身の人たちの責任はどんな種類のセックスにもノーと言つことに他なりません。

性に関していけないいくめの教会の掟について、文句を言う人たちがいるかもしれません。しかし、まさにこれらの掟は性と愛の非常な重要性を反映するものです。性に関する掟は、実は、性の使用に関する神様の計画の中で愛するようつと言つ積極的な掟に他なりません。問題にしなければならぬのは、「罪を犯すことなくどの程度まで親しくしているか」ではなくて「わたしは、性的な清らかさの力でもってどのように神と隣人を愛することができるのだろうか」ということです。

その意味の全て

神はあなたが純潔であることを期待していらっしゃる。性はよいものではあっても、

結婚の枠の中でのみ許されます。結婚の中で、性は結婚の契約に由来する拘束を象徴します。多くの偉大な聖人たちがこの真理を主張してきました。聖アウグスティヌスのように、あるかたたちは自分たちの欲情を克服しています。また、ある人たちは、旧約聖書のヨセフとか、聖マリア・ゴレッティのように、時としては純潔を守るために命を懸けてまでも、異性の誘惑を退けています。

純潔は恵みと呼ばれる神の助けに頼るとき初めて可能になります。わたしたちは、純潔をひたすら守る固い決心をして、この恵みに協力しなければなりません。失敗した人たちは悔い改めて、神の赦しを受けて、再度、良い、聖なる生活を送ることが出来ます。最後に、純潔の徳は、この世でも、御父と共に永遠に天国でも、わたしたちが幸福の道を歩む手助けをしてくれます。

青年たちへの教話の中で、教皇ヨハネ・パウロ二世は「自分たちの体をコントロール出来ないような動物のレベルにまで下げない仲間の一人になって下さい。自分たちの体を尊敬して下さい。それは人間であることの条件の一部です。それは聖霊の神殿、それは神があなたたちにお与えになったからこそ、あなたたちの物ではありませんか：その中にこそ、あなたたちの魂のもっとも秘密の部分、あなたたちの命のもっとも個人的な意味、あなたたちの自由、あなたたちの召しだしをさらけ出すことができるのではありませんか。『その体をもって神に栄光を帰せよ』(一コリント6・20)」

聖書の中で、聖パウロは、競技者が栄冠のために競うのと同じように、わたしたちもキリスト教的生活を送るべきである、と言っています。「競技者はみな万事を控え慎む。それは朽ちる栄冠のためであるが、わたしたちは朽ちぬ栄冠のために走る」(一コリント9・25)

事務所便り

空を流れる雲も秋らしくなり、運動会の季節です。お元気で過ごしましょうか。

皆様も、お気づきの事でしょうが、最近、テレビや新聞などメディアに命の事がずいぶん取り上げられるようになりました。安楽死や尊厳死、脳死と臓器移植、そして、性教育やピルの事です。専門家の方々の意見はたくさん登場するけれど、一般の人々の意見が少ないようです。でも、一般の人々の意見もとても大切なものです。あなたはこのように感じられているのでしょうか。事務所の方にあなたの今感じている命への想いを文にして送って頂けませんか。皆様の命への想いをプロ・ライフ・ニュースの紙面で御紹介させて頂きたいと思っておりますので、どうか御協力をお願い申し上げます。その命を考えるよすがに事務所発行の『赤ちゃん 最初の十ヶ月の旅』のパンフレットはいかがでしょう。12ページのフルカラーですので、若者達にも人気のあるプロ・ライフの資料です。学校や家庭での性教育に、PTAや妊娠しているお母さんへのプレゼントにきつと御満足頂けると思います。

事務所では、会計の小松俊美さんが三週間あまり急入院しました。退院後、家庭で療養していましたが、九月からはまた、事務所に戻って仕事を続けてくれるでしょう。もう一人の76歳の大石露子さんは週に四回ぐらい事務所に顔を出してくれています。そして、熱心にラベルと切手はり糊づけを専門にやってくれています。他のスタッフも三人時々事務所に顔をみせ、コンピュータや切手、ラベルはり糊づけ等手伝ってくれています。

八月九日、ボランティアビューローの「心のダイヤル」養成講座の終了者のためにプロ・ライフの代表者・ノボトニ先生の前ピンチ・ヒッターで大岡が講演に出かけました。